

いもう 葦毛通信



カタクリ

令和2年 4月28日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町3丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 93

1、日本自然保護大賞 2020 に入選しました！

愛知県指定天然記念物「葦毛湿原」と豊橋市指定天然記念物「ナガバノイシモチソウ自生地」で行っている「大規模植生回復作業」が、日本自然保護大賞 2020 に入選しました。平成 29 年度（葦毛通信 No. 64 参照）に続き 2 度目の受賞です。入選証が送られてきましたので掲載します。

今回の入選証には、「**土壌シードバンクの埋土種子を活用し、森林化した湿地を再生・保護する**」という活動のテーマが記載されました。

葦毛湿原では大規模に木を伐って森林化した湿地を再生する第 2 段階がほぼ終了し、湿地中心部の遷移を部分的に戻す第 3 段階に入る時期になりました。

今後も豊橋湿原保護の会、豊橋自然歩道推進協議会等のボランティアの方々と葦毛湿原とナガバノイシモチソウ自生地の再生に向けて、大規模植生回復作業を続けていくつもりです。



入 選

豊橋市教育委員会
豊橋湿原保護の会
豊橋自然歩道推進協議会 殿

土壌シードバンクの埋土種子を活用し、
森林化した湿地を再生・保護する

あなたの活動は日本の生物多様性保全に貢献し、
「日本自然保護大賞2020」において優れたものと
認められましたので、これを賞します

2020年3月22日

公益財団法人日本自然保護協会

理事長 亀山 章



日本自然
保護協会
自然のちからで、
明日をひらく。

2、2019年度ナガバノイシモチソウの大規模植生回復作業

2019年度は毎月1回の定期作業を行いました。4～10月までは通常の定期作業としてスギナ、ドクダミ、チガヤ、ササ等の除草、ヤマイ、テンツキ等の穂の刈り取り、ダンドボロギク、メリケンカルカヤ、ニワゼキショウ等の外来種の駆除を行いました。

11月から3月までは大規模植生回復作業として、木の根からのヒコバエの刈り取り、南側のマツ等の高木の伐採、北側と東側のフェンスの除草を行いました。

右上写真は第1地点から第7地点側を見たところで、手前の右から左に向かって帯状になってやや白く見えるところにナガバノイシモチソウがあります。左側から奥にかけては金網のフェンスがあり、フジ等が絡みついています。右側は木の切り株から多くのヒコバエが伸びていました。また、木を伐って日照が改善されたことにより、カラスザンショウ、タラノキ等の陽光性の灌木も出現しました。

右下写真は植生回復作業後の状況で、フェンスに絡みついたフジやヒコバエを除去し、刈払機で除草した1か月後の状況です。

下写真は第7地点側から第1地点を見たところですが、画面手前のブロックで囲まれたところが第5・8地点、画面には入っていませんが、左側が第7地点になります。



2019年度作業前（2019年10月16日：西から）



2019年度作業後（2020年4月22日：西から）



2019年度作業前（2019年10月26日）



2019年度作業後（2020年4月22日）

右写真は第2地点の状況で、奥が第3地点になります。作業前はカリマタガヤとナガバノイシモチソウが共生していました。枯れたままにすると地表面の日照が妨げられてナガバノイシモチソウの発芽が阻害されることが分かりましたので、刈払機で除草しています。その時に、葦毛湿原の作業で使ってチップが飛んで廃棄するチップソーの刃を再利用して地表面ぎりぎりまで削っています。地表面にはコケや藻類が繁茂し、乾いて板ノリ状になっているところがあるため、できる限り削り取るようにしています。

地表面は裸地状態になりますが、ナガバノイシモチソウにとってはこの状態が発芽に最適なようです。

下写真は第7地点で作業前には画面中央部でテンツキやヤマイが繁茂していました。テンツキやヤマイは背丈が低くまばらな状態ならナガバノイシモチソウもなんとか発芽できますが、密生してくると日照が悪くなり負けてしまうようです。また、テンツキやヤマイは水分が多い所に出現し、密生すると日照が悪くなり、地表面に藻類が繁茂し他の植物が発芽できなくなるようです。



2019年度作業前 (2019年10月26日:西から)



2019年度作業後 (2020年4月22日:西から)



2019年度作業前 (2019年10月26日)



2019年度作業後 (2020年4月22日)

【実験区の設置】

ナガバノイシモチソウ自生地では、かつてはササ、チガヤ、オニシバが地表面近くに根を張り優勢になっていました。

画面左の杭と右側の散水機との間ではまだササが優勢になっており、ナガバノイシモチソウがほとんど見られません。

そこで第4地点北東側にササの根を除去する5×2mほどの実験区を設置しました。

右上写真は作業前の状態で、画面中央の左から右にかけてやや白くなっているのがナガバノイシモチソウで開花している状態です。

作業は唐鍬等でササの根を丁寧に掘り取りました。掘り取った直後は土が柔らかくなり、フカフカの状態でしたが、ナガバノイシモチソウは固く締まって腐葉土等の表土がほとんど無いような環境が適しているため、作業地を踏み固め、自生地を囲っている正方形のコンクリートブロックを叩きつけて地面を固めました（右中写真）。

右下写真は作業後で、画面中央で左右に細長く見えている長方形の裸地が実験区です。ナガバノイシモチソウの埋土種子は地表面に薄く濃密に存在しています。地表面をある程度かく乱したことにより一旦衰退して、その後ナガバノイシモチソウが出現・再生してくると予想しています。



作業前の実験区（2019年8月14日）



ササの根の除去作業（2020年3月17日）



作業後の実験区（2020年4月22日）